

## 天体教材の指導におけるOHPの活用例

小野寺寿雄・渡辺専一

### 1. はじめに

天体教材の指導には、観測の結果を考察させ、説明するためのモデルを作ったり、また観測結果がふじゅうぶんな場合、これをおぎなうための教材を用意することが必要である。

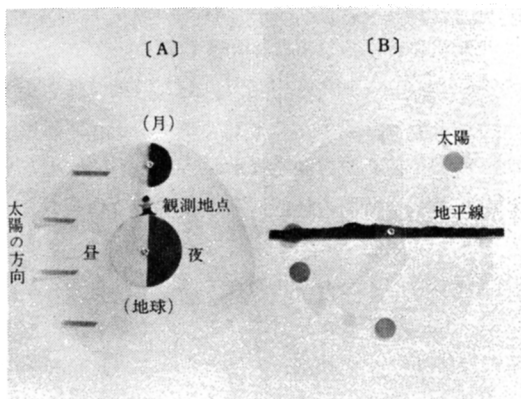
ここに紹介するものは、いずれも、手軽に作られ、OHPを使って簡単に投影することにより、上記の目的を達成することができるものである。紙数の都合で、その作り方と使用法の概略を述べたい。

### 2. 月運動説明モデル (図-1)

〔A〕は、太陽・月・地球の位置関係による月の見え方や、昼夜の移り変わりなどを説明するものであり、〔B〕は、月の形と見える位置、時刻等を説明するものである。

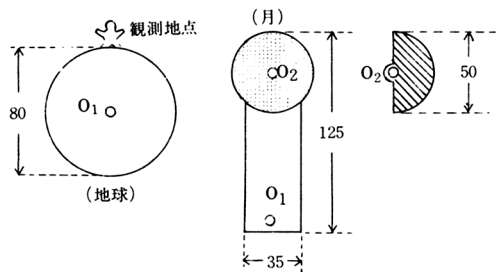
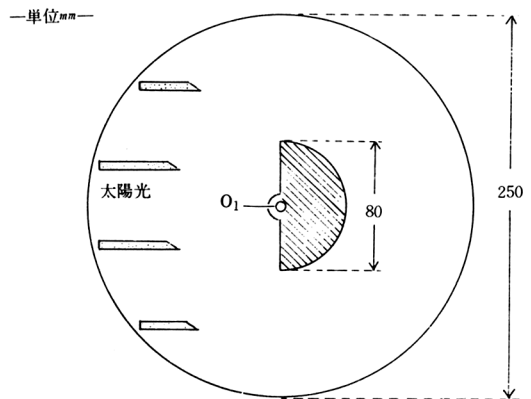
〔A〕～図-2に従ってTPシートを切りO<sub>1</sub>およびO<sub>2</sub>の部分それぞれ鳩目で止め、自由に回転できるようにする。地球と月の、影の部分(斜線部分)には、青のカラーシートをはり、月には赤いシートをはっておく。太陽光は偏光シートを使えば効果的である。

図-1は下弦の月の場合であるが、地球を回転して昼夜の移り変わりを考察したり、月の位置を変え



て、その見え方を考えさせる。(6年)

図-2



〔B〕～図-3の通りTPシートで作り、地平線をもつシートの上に、月・太陽をもつシートをO点で重ねて、鳩目で止める。太陽および月は、それぞれ赤、黄のシートを使い地平線からは黒シートをはる。

投影板の上に、東・南・西の方向を表示して地平線を投影し、それぞれのシートを右に回せば、月の見える時間、位置とその形などを考察させることができる。(3年)

〔A〕,〔B〕ともに、やや厚めのTPシートを使うことと、投影する場合には、手ぎわよくやるのが大切である。